



「人間の
2002
龍九寨溝
中国
黄龍は標

中国大陸紀行(九)
二〇〇七年



宮崎県版
No. 345
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
宮崎県本部
〒880-0031
宮崎市船塚 3-193
電話 0985(26)4224
FAX 0985(20)3154
郵便振替口座
02070-9-11382

「人間の瑶池（この世の仙境）」黄龍
絵・文 菅谷 幸則

2002年9月、大自然の神秘に包まれた世界自然遺産、黄龍九寨溝をめぐる旅。

中国・四川省の西北部に位置し、パンダの里も近くにある。黄龍は標高5588mの雪山山を望み長さ75km、幅約1kmでカルシウム堆積によって形成され、深黄色をしている河である。エメラルドグリーンの段々畑のような湖沼群は「人間瑶池（この世の仙境）」と言われている絶景です。

1つひとつの湖沼群は龍のうろこであり、天空より眺めればまるで一匹の金色の巨龍のように見えるという。かつて人工衛星から、地球を見た時「万里の長城」と「黄龍」が目にとまったという宇宙飛行士からの言葉もあったと聞いた。

1992年、黄龍はユネスコによって「世界自然遺産」リストに収められている。

「人間の瑶池」黄龍

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対すること
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

「楨峰鉦山中国人殉難者慰霊祭」に参加して

白江 純美

11月21日、楨峰鉦山跡で慰霊祭が行われた。かつて楨峰鉦山では、250名の中国人が強制連行され、劣悪な環境の中でまさに牛馬のように働かされた。そして、76名の方が故郷の地を踏むことなく亡くなっている。

今回、初めて犠牲者の孫、親戚にあたる方7名が参加しての慰霊祭が行われた。

慰霊祭の後に、会場を日之影町役場に移して交流会が行われた。中国から参加された方々が亡くなった祖父等への思いを語られたが、同時に、「中国と日本は二度と戦争してはいけない」との思いを語られたことが深く心に残った。

ヨーロッパでは、オランダ、スペイン等の国々が、アフリカからの奴隷連行に手を貸したこと、それで大儲けしたこと、インカ帝国・インカ文明を滅ぼしたこと等を間違いだつたと世界に向けて発信している。自分たちは直接関わったわけではないが二度と間違いを犯さないために。

加害者である日本政府が、今こそ強制連行や中国・朝鮮での蛮行、慰安婦問題等について謝罪し、二度と繰り返さないことを宣言すべきだとの思いを強くした交流会となった。

楨峰鉦山のあった美々地小学校は、私の初任校である。閉山2年後だったが、校舎は真新しく、備品も整っていた。また、春は鉦山が植えたという桜が咲きほこりピンクに染まった。地域の方々は、事あるごとに、映画は延岡よりも早く封切られたこと、週末にはダンスパーティーが開かれたことなど、その華やかさを誇らしげに語ったが、中国人鉦夫の惨状を聞くことはなかった。4年間、何も知らず、知ろうとする努力をしなかったことを恥じている。

慰霊碑の建立や補償問題等に深く関わってこられた、福田鉄文さんがおられたらと想いながら帰途に着いた。



紅梅が咲きました

相川勝六(戦前第2代宮崎県知事)について

野崎 眞公記は、
今月はお休みします。

ホーチミン旅行について

その3

川崎 光一

ベトナムの社会主義

クチトンネル観光の時は、バスでの移動も考えたが、ホーチミン市内から少し離れていること、時間の節約、現地ベトナムの状況を聞きたいということも考え、日本語の現地ツアーを頼むことにした。ガイドは、今までと同様にベトナム人の方だった。

ベトナム人のガイドの人には、案内先の観光案内もさることながら、ベトナムの状況を聞くのも楽しみの一つである。もつとも、生活に関わる部分については結構聞けたが、政治的な部分については、あまり聞けなかったのは残念だった。

観光客である限りは、「社会主義」を全く感じない。経済発展の遅れた国を「一党独裁」の強みを活かして、経済的に先進国に追いつこうという姿しか見えないのを見ると、自分が今までイメージしてきた「社会主義」との格差に愕然とする。

真逆の方向

社会主義といえば、「生産手段の社会化」というのが社会主義の中心的な特徴の一つと言われるが、ベトナムでは、ネットニュースを見る限り、国有企業の民営化も進んでいたり、株式市場もあつたりすることを見れば、資本主義化が進んでいる。

ベトナムでは制度上、土地の私的所有は取得できず、使用权のみを取得でき、建物については私的所有権を取得することが可能だとされている。このまま「ドイモイ」が進むと、ひよつとしたら土地の私的所有も可能ということになるまいかとさえ思う。

以前、「市場経済を通して社会主義へ」という内容の話を文献が何かで読んだことがあるが、中国も同じように、ベトナムもまた、この「ドイモイ」の中身はひたすら真逆の方向、つまり「社会主義から資本主義」へと進んでいる。

社会主義とは

1989年にベルリンの壁が崩壊し、1990年の東西ドイツの統一により社会主義を標榜していた東ドイツが資本主義国の西ドイツに吸収され、またソ連邦は崩壊し、その中核であるロシアは資本主義へと完全に移行した。

ベルリンの壁が崩壊する前ぐらいから、ベトナムは「ドイモイ」政策をとりはじめ、中国同様に政治的には「一党独裁」の体裁をとりながら、経済的には資本主義への道をまっしぐら、つまり「社会主義の皮をかぶった資本主義」へと進んでいるように見える。

中国の内情はネットで見る限りなのだが、このベトナムで私を感じたことを合わせると、結局「社会主義とはなんぞや」と考えざるを得ない。「社会主義」という用語の使い方も含め、「社会主義」についての定義をし直す時期にきているような気がするのだが。(了)

『短歌』

募金を暴くスクープが赤旗と

説いて日曜版拡大なりぬ

田爪方子

自衛隊基地が米軍基地化すると

吾より若きが本気で怒る

黒木直行

春の門わが蒔く豆は福の種

戦を阻み平和をつなぐ

荻原絃一

玄関の春来たごとく花盛り

配達途中の褒美のごとし

水永玲子

兄の法事終えその疲れ癒えぬ間に

衆院候補者に子が決まりしと

白江純美

裏金に反省見えぬ政治家に

未来託せぬ思いの募る

水永正継

久々に花芽を付けた庭の梅

やっと実った孫生(ひこぼ)え育て

横木正恵

梅の木の枝切りおれば花咲かす

只一輪が隠れ咲きおり

田辺静代

2月14日はバレンタインデーでした。日本(?)では女性が男性にチョコレットをあげる日とか。本命・家族・義理とある中で、今は自分へのご褒美チョコが一番高い人も多くなっているとか。
売れ残りの割引チョコでも買ってきて、おいしいコーヒーでも飲もうかな?!